

## 第4回 浜坂温泉保養荘のあり方検討会 議事要旨

1 日時 令和7年3月28日(火) 10:00~11:15

2 場所 県庁1号館13階会議室(オンライン併用のハイブリッド方式)

### 3 出席者

谷口 泰司 委員、東鬼 正明 委員、福田 庸二 委員、福井 崇弘 委員、  
長友 幸一 委員

### 4 要旨

事務局から民間事業者ヒアリングの結果等を報告した後、報告書の方向性について委員間で意見交換を行い、事務局案におおむね了承を得た

### 5 主な意見

#### (報告の方向性について)

- ・ 本施設の建設当時は障害者に配慮した施設が無く、県が先導的に整備したもので、当時としては大きな意義があった。ユニバーサルデザインの取組も進み、いろいろな場所にこのような機能を持つ施設があるという時代に移行しているが、立派な施設なので民間でも活用してもらえらるならそれに越したことは無い。報告書の流れとしてはこれでよいのではないか。
- ・ 「適格性のある事業者」には、金額的な要素だけでなく、地域でしっかり営業を続けてくれる見込み・姿勢という要素も織り込んでほしい。
- ・ 地域への経済効果としては宿初施設の継続が望ましいが、宿泊施設として維持できない場合、現地ではケアハウスや軽費老人ホームが足りないという状況もあるので、用途転用の例を示す場合、そこに含めることを検討してほしい。
- ・ ケアハウスありきではなく、まずは宿泊施設として検討し、そこで無理だった場合の用途転用先として出てくる方が構成としてよいのではないか。
  - 事務局：進め方としては、サウンディングの中で事業者から提案があれば排除することまでは考えていない。また、民営化がうまく行かなかった場合の選択肢である用途変更(公営)を検討する段階では、庁内で福祉施設としてのニーズも調査を行いたい。
- ・ 「県と事業団で調整の上、期限を設定して取組を進める」とあるが、概ねの予定は報告書に明記するのか。
  - 事務局：無償貸与期間が一つのポイントと見込まれるが、当事者間の調整も必要なので、報告書には具体の時期までは明記せず、きちんと調整を進めることを求める形としたい。
- ・ 廃止も選択肢なのか。
  - 事務局：まずは民営化に取り組むが、努力を尽くした上でやむを得なければ、最後の選択肢となる。

### (報告書の内容について)

- ・ 障害者更生センターとしての位置付けにこだわらないという方向性は理解するが、実態として難しいということが伝わってこないので、もう少し丁寧に説明すべき。  
→ 事務局：これまでの経緯は、現状・課題の部分で丁寧に記載する。
- ・ 民営化に向けた対応として、譲渡価格の低減等の財政的な支援等を検討するということも書いた方がよいのではないか。
- ・ 地元では雇用の問題が意識されるので、雇用への配慮ということも入れてほしい。
- ・ ケアハウスや軽費老人ホームは採算的には難しく、提案はあまり期待できないのではないか。
- ・ 福祉事業の必要性は理解するが、募集をかけても人が集まらないという状況があり、転用後の用途としては難しいのではないか。
- ・ 今の経営が終了する場合、できるだけ空白期間は作らない方が望ましい。